

演題番号	第5分科会
5-10	提案テーマ「アテトーゼ型脳性麻痺児が一人で座れた」 ～楽スタ環境下で知覚化のための荷重～ 大阪府立岸和田支援学校 教諭 小浦 亜由里

◆楽スタ（重力軽減環境訓練システム）

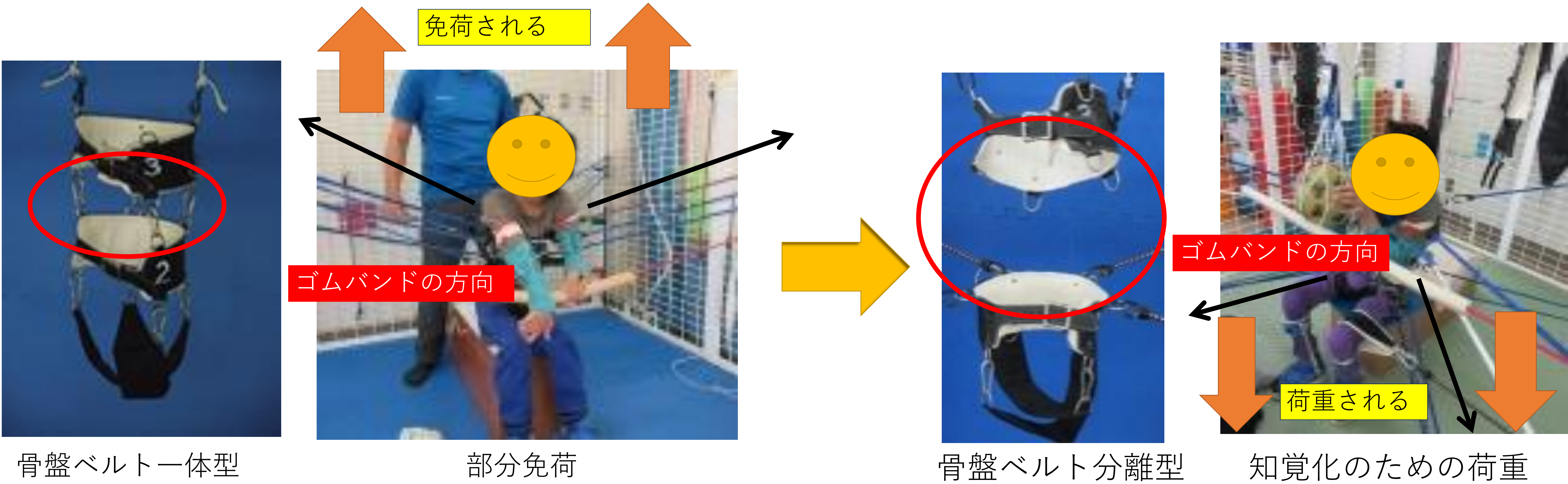
部分免荷＋不安定ながら制御された環境＝一人で立てた。座れた。リラックス効果。



◆さらに深下したアイデア⇒知覚化のための荷重



【生徒の実態】
高1男子 診断名：脳性麻痺（アテトーゼ型）、床上姿勢変換は寝返りまで可能。筋緊張の変動が激しく、四肢はつっぱり、頭部・体幹の過緊張で安定した介助座位姿勢をとることが困難である。学童期は、胡坐やベンチ座位で教師が後方から介助して指導していたが、中学部以降は体も大きくなり、伸展緊張が強いため、車いすでの座学が中心となる。



- ▶ゴムバンドは均等に3本ずつの計12本
- ▶足部、骨盤が不安定で非対称や反ることもある
- ▶座位姿勢が不安定で、後方には見守りが必要
- ▶目と手の協応動作は不十分

- ▶ゴムバンドは反りと崩れる方向を少なくする
- ▶足部、骨盤が安定して対称性が保てる
- ▶姿勢が安定し、安全に安心して一人で座れる
- ▶目と手の協応動作が向上する

子供の自己肯定感を育む
 教師のモチベーションが上がる

➡

エビデンスが変わる